

守大助さん面会記 えん罪・仙台北陵クリニック事件

11月14日(火)徳島の会

大助さんには2016年6月に連れ合いと一緒に面会して以来でした。千葉の銚子の方と面会しました。面会室に現れた大助さんは以前と同じように、にこやかな顔つきであった。少し腰を痛めているようで心配であったが、それほど深刻な病状ではないようで安心した。

今は調理場の下仕事をしており、大変なようであった。再審の行方は気にかけているが、全国からの励ましてくれている会のみなさんには感謝の言葉を述べていた。今、全国各地から仙台高裁に向けて再審開始を求める要請ハガキに取り組んでいるが、是非成功させて裁判官の姿勢をかえさせたいと感じた。徳島の会では、この要請ハガキと大助さんへの年賀状に取り組んでいる。

有川哲雄さん

11月14日(火) 救援会銚子支部

救援会銚子支部から初めての面会と思います。面会室に入ると大助さんは作業着姿でマスクをかけ、刈り上げの姿で現れました。

この日は徳島の会の有川哲雄さんと一緒でした、有川さんは手紙を毎月書いて、親しく顔なじみように話していました。継続的に交流することが信頼関係を築くと言うことを痛感しました。

私も大助さんと心の絆をつくるのが最大の支援になると感じました。さて大助さんの再審請求審は仙台高裁で証人尋問、証拠開示はなく、前途は厳しいものがありますが大助さんは決してめげないで「自分は無実なんだ!」という強い気持ちを感じることでこちらが励まされました。

再審無罪を勝ち取るために紆余曲折が予想されますが救援会銚子支部では年明けに医療関係者を招いて「ここが変!北陵クリニック事件」の学習会を予定しています。大助さんの支援の輪を広げていかねばと強く感じました。

差入れは週刊誌アエラ、モーニング、スピリッツの三冊。制汗剤、タオル。

青野信之さん

えん罪・仙台北陵クリニック事件

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行う。

11月10日(金)ご両親

10日の朝一番の面会(受付も一番)でした

9日に東京で「くり返すえん罪!市民集会」に参加して、190名を越す参加と交流やゴビンダさんが5年ぶりに来日されたことなどを伝えた。仕事が変わって約1ヶ月ほど、元気で明るさをとり戻すが、包丁さばきが気になるようで、20キロの野菜の乱切りに20分かかり先輩から短縮を指導され悔しさを玉葱の処理の涙に合わせて一緒に悔し泣き。

包丁の音で判るらしくトン・トン・トンのリズム感が途切れ指導されるようだ。昔お参りしたトン・トン・トンの心地よいリズム感のある川崎大師の飴切りのようになるまで頑張れと励まし別れた。



激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2017年11月 112号

●12月の面会日 4日ご両親、19日、日、日。1月の面会は日、日、日、日

□面会申込み/□国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

E・mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

11月22日(水) 救援会千葉

9月に千葉県本部事務局長になり、大助さんが3類から2類に上がって月の面会回数も増え、各支部に支援を訴えるためにも一度は大助さんに会っておかなければ、ということで実現した次第です。

これまで全国から、はるばる千葉まで面会に訪れた方には大変申し訳なく思っています。

私と同じ立場の竹内副会長、千葉刑務所の面会同行をしている戸賀さんとで刑務所の門をくぐり、足利事件の菅家さんの釈放の日に売店の中で待ちわびたことを思い出しました。

大助さんは想像していた以上に精悍な顔で、これも仕事で大変だからかなと感じました。1000人もの人の食事の下ごしらえで手に豆を作っている由、より大変さが伺えました。前日の仙台での記者会見や要請高度の動きを伝え大いに広めていかなければとお互いに確認して面会を終わりました。

逸見眞一さん



戸賀、竹内、逸見救援会千葉県本部の皆さん

11月27日(月)

神奈川の支援する会

伊藤幸枝さん、吉田龍子さん、金木照美さんが面会されました。

昨年
の
矯
正
展
か
ら



11月7日(火) 岸田郁さん

靴工場から、受刑者の食事を作る部署に異動となつて、一定期間経過したせいか、その変化や場の雰囲気にも慣れてきたようです。移動直後には、体力勝負の部署であることから、大量の汗をかいて一気に体重が落ちたとのこと。

今は「洗い場」から野菜の下ごしらえをしているとのこと。事件前にはあまり料理をする機会がなかったことや、1000人からの食事の下ごしらえでキロ単位の野菜の皮むきなどに、少しずつ慣れてきているようです。

季節柄、年賀状の話をしたときに『あけましておめでとう』が嫌いならば、違う言葉でいいから出してはどうか？、せっかくいつもより多く発信できるのだから」と話したところ、刑務所の決まりで年頭のあいさつを書かなければいけないことになっていて、今の状況からではとても「おめでとう」という気分にはなれないとも言われ、気持の問題では仕方がないけれど少し残念に思いました。

今回の面会で、大助さんと一緒に面会室に入って記録を取っていた刑務官に、見覚えがありました。面会の終わりの頃に、以前面会や差入れの受付を担当されていた方であったことが判り、私のことをよく覚えていてくれていて、私が千葉県本部にいたときに毎週差入れをしていたときのことが話題になり、和やかに面会を終えることが出来ました。

差入れは週刊誌2冊と文庫本1冊



昨年の矯正展参加者の皆さん

